

仙翁記行
 但有磯海
 一

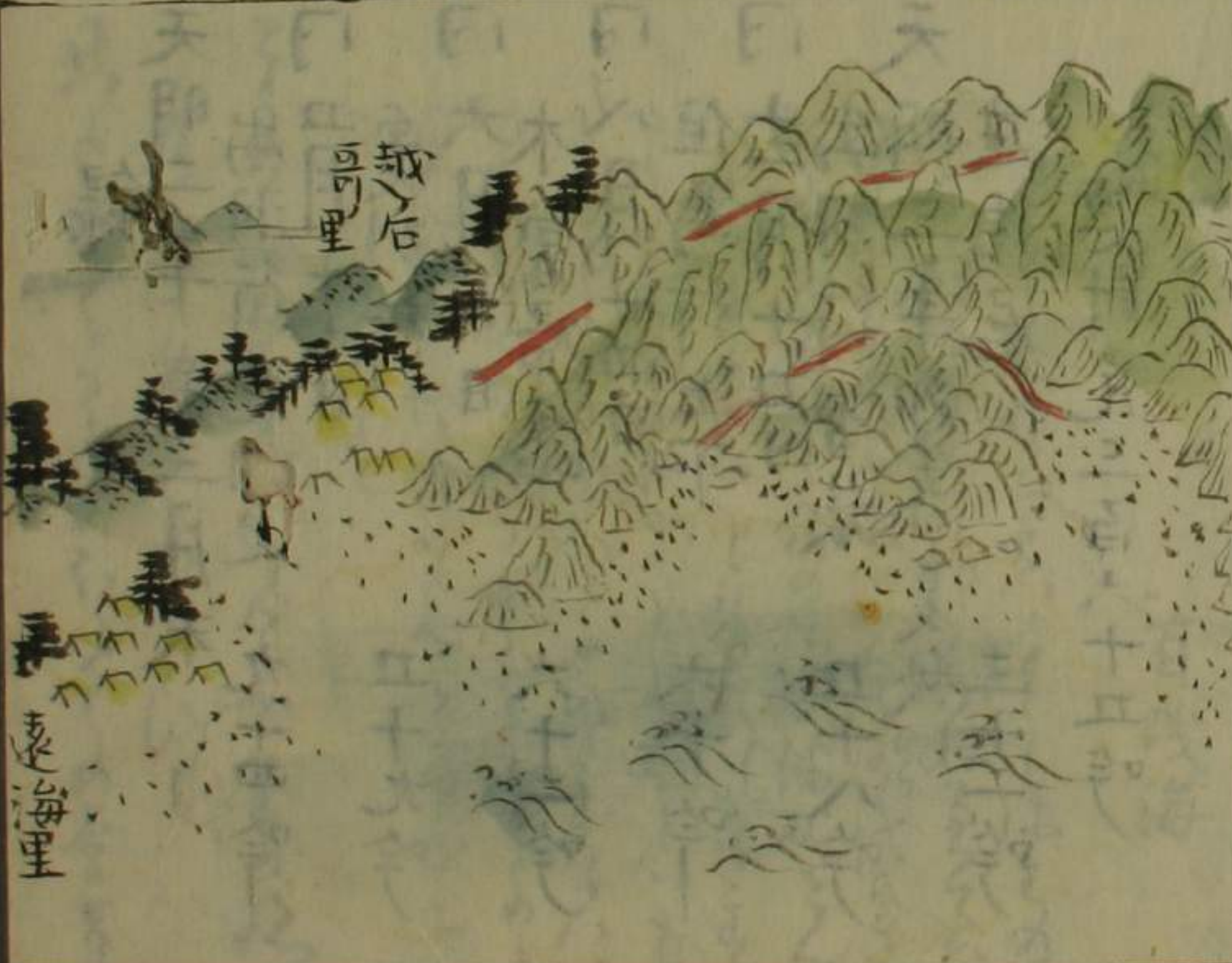
卷九十
 西莊文庫

特別
 3
 3616
 1



特
 3616
 1

此道所難大廻波荒時此道



三三

此道所難大廻波荒時此道

文政ら...

物九千...

白...

...

...

...

...

特
ル 3
3616
1

訃儀

心の及口を
凡の百金

三十二年 寅三月

有磯海
廿九日

真之山道
廿九日

本台持
廿九日

他馬記行
廿九日

雪の後
廿九日

池内所
廿九日

糸行社縁
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

東行日志
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

出羽泊所
廿九日

真之山道 五十九
本岩抄巻 六十二

日八月 他馬記行 六十一

日九月 雪の痕 五十八

卯正月 糸行社縁 六十

卯正月 出羽泊行 五十七

辰二月 出羽泊行 五十二

辰二月 東行日志 五十七

卯正月 出羽泊行 五十八

己八月 糸川上下 五十七

卯正月 大山道縁 五十七

卯正月 宇保道引 五十六

卯正月 物合八下 五十六

卯正月 法流寺縁 五十七

卯正月 杉本村縁 五十七

卯正月 物合八下 五十七

卯正月 物合八下 五十七

卯正月 物合八下 五十七

天明二年 録
 三月末 出羽行北 九十四吟
 四月十六日 奥州行 五十九吟
 六月九日 木曾歸路 六十二吟
 八月廿四日 但馬行上下 六十吟
 十月十五日 出羽行雪旅 五十八吟
 天明三年 卯春復秋 庄内居 三十二吟
 總計 凡三百六十五吟

紀行

有殘海

天明二年三月末の
 出羽行北の紀行
 三月末の奥州行
 六月九日の木曾歸路
 八月廿四日の但馬行上下
 十月十五日の出羽行雪旅
 天明三年卯春復秋の庄内居
 總計凡三百六十五吟

はなはな

かしら

とほのほ

かき

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

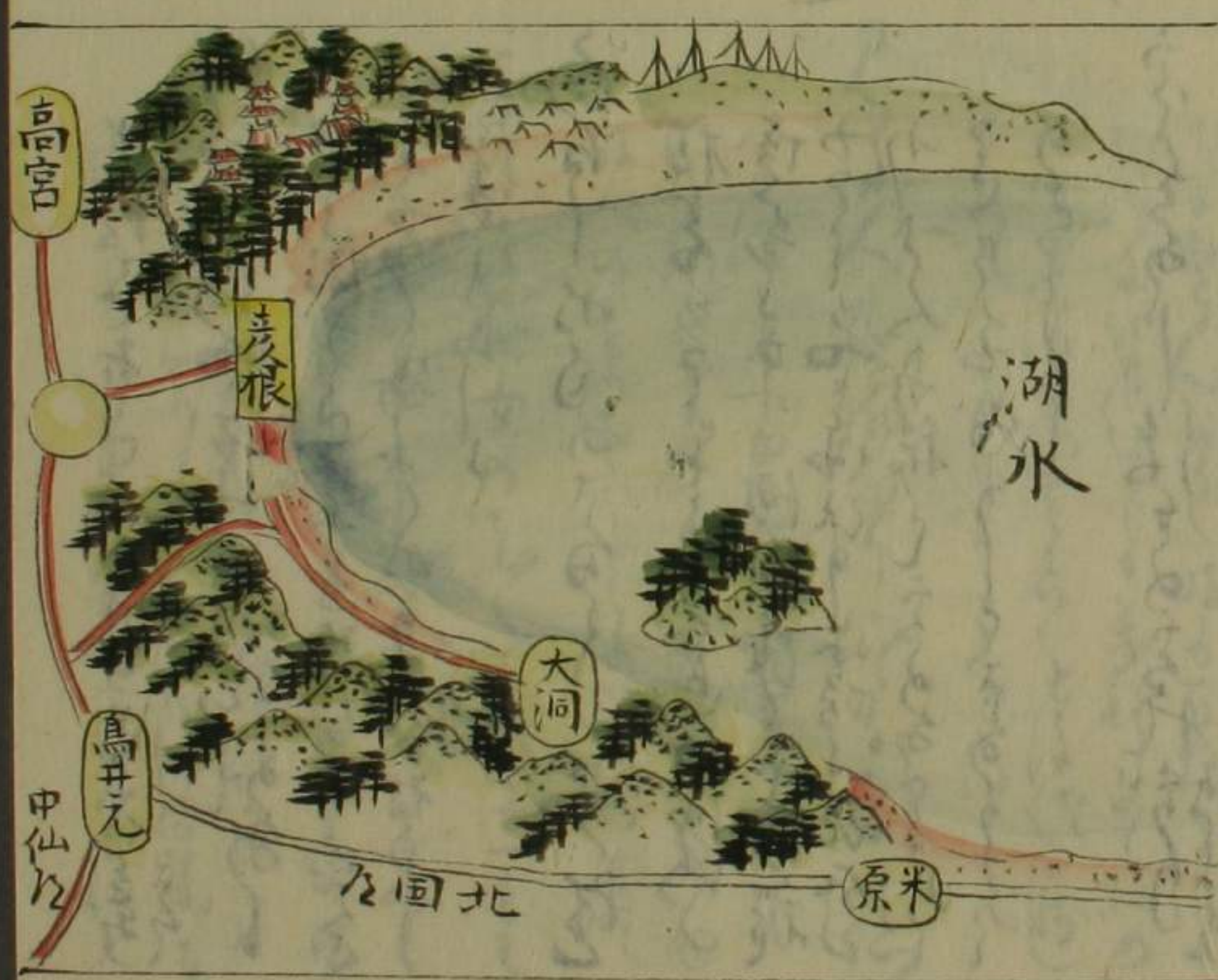
江近

この川は、大洞の南にあり、
流す水は、清く、味もよく、
おぼろしく、大洞の南にあり、
比叡天皇の御宇に、
この川に、
いふと、
流す水は、

神宿し、

大洞の南にあり、
流す水は、
おぼろしく、
比叡天皇の御宇に、
この川に、
いふと、
流す水は、

流す水は、



社名 江近

船はあつたの二女とて
 何れもいふはく水ききう申



大なる山とて中とて
 舟人の舟は海に
 舟は海に

山中やねんちんちん

舟は海に

舟は海に

舟は海に

舟は海に

舟は海に

錯れ介みし甲もなれぬ

十ねのあやせしむるあし

らちのめし十ねのほろひのあ

ねほりしむるふしあやせのほろひ

しむるあやせのほろひ

あやせのほろひ

あやせのほろひ

あやせのほろひ

あやせのほろひ

あやせのほろひ

あやせのほろひ

いしむるあやせ

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

さしねのあやせしむるあし

本多のいしやいし

全中

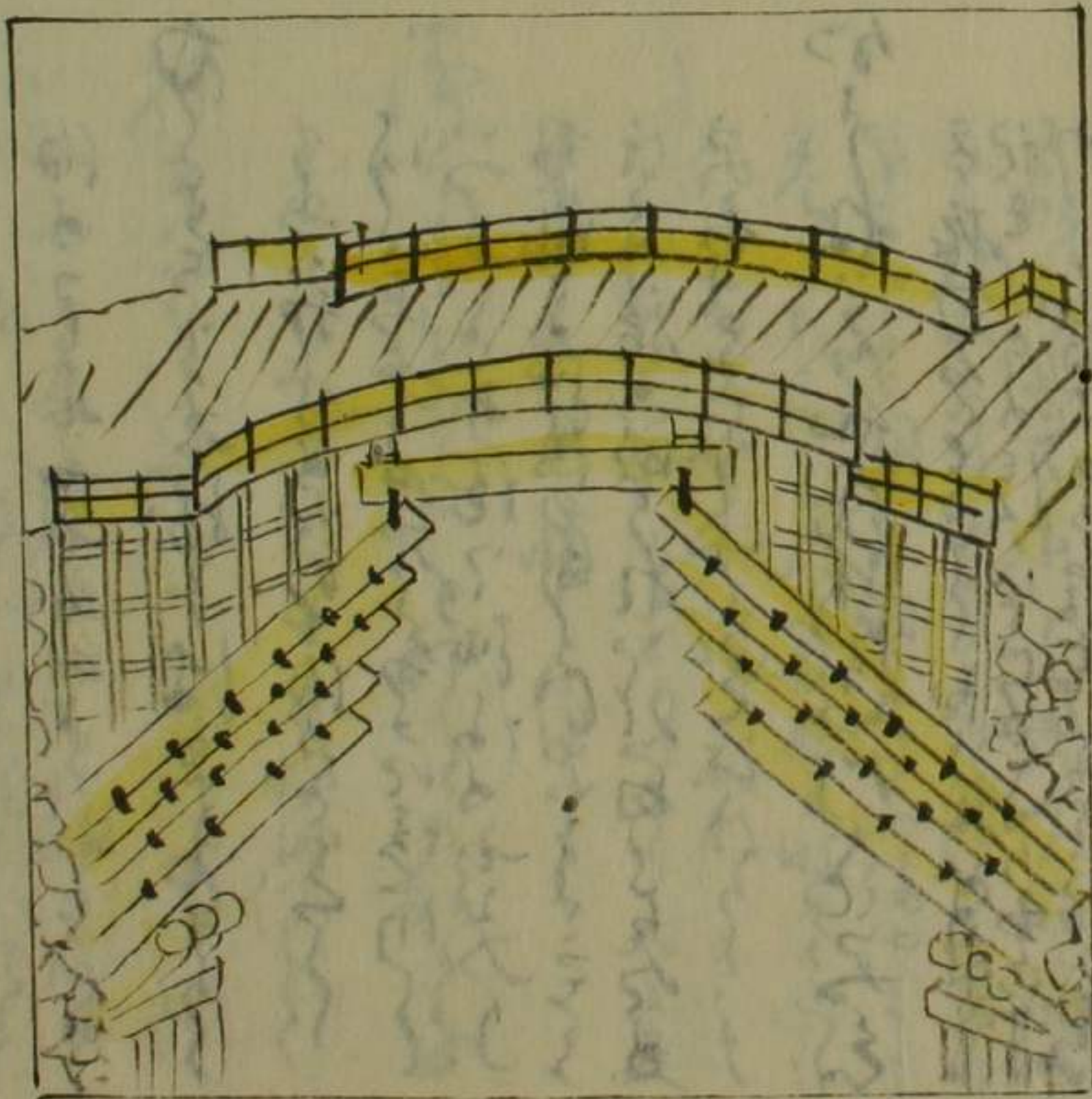
山崎のいしやいし

釘ヶ山敷

解のいしやいし

おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし
おまのいしやいし

いし



途中三月

いし

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

四一海軍省の事務

三二海軍省の事務

二二海軍省の事務

一三海軍省の事務

全書

一四海軍省の事務

一五海軍省の事務  
一六海軍省の事務  
一七海軍省の事務  
一八海軍省の事務

一九海軍省の事務  
二〇海軍省の事務  
二一海軍省の事務  
二二海軍省の事務

二三海軍省の事務

二四海軍省の事務  
二五海軍省の事務  
二六海軍省の事務  
二七海軍省の事務  
二八海軍省の事務  
二九海軍省の事務  
三〇海軍省の事務  
三一海軍省の事務  
三二海軍省の事務  
三三海軍省の事務  
三四海軍省の事務  
三五海軍省の事務  
三六海軍省の事務  
三七海軍省の事務  
三八海軍省の事務  
三九海軍省の事務  
四〇海軍省の事務



柏原のついでに

吹向るやいの井より歌

かゝるのうらみはなほ

海にうつるはなほ

和れ井のくもせは

あゝ海のうらみは

かゝるのうらみは

余中

軍もかきつらば

少舟のうらみは

海ありて天に

武高は

坂と海に

山に上りては  
土田のうらみは  
谷間に  
白く

かきこしとていふは「かきこし」

全中

父のいふに「かきこし」は海草

田中のかきこし

かきこしはかきこしとていふは

かきこしはかきこしとていふは

かきこしはかきこしとていふは

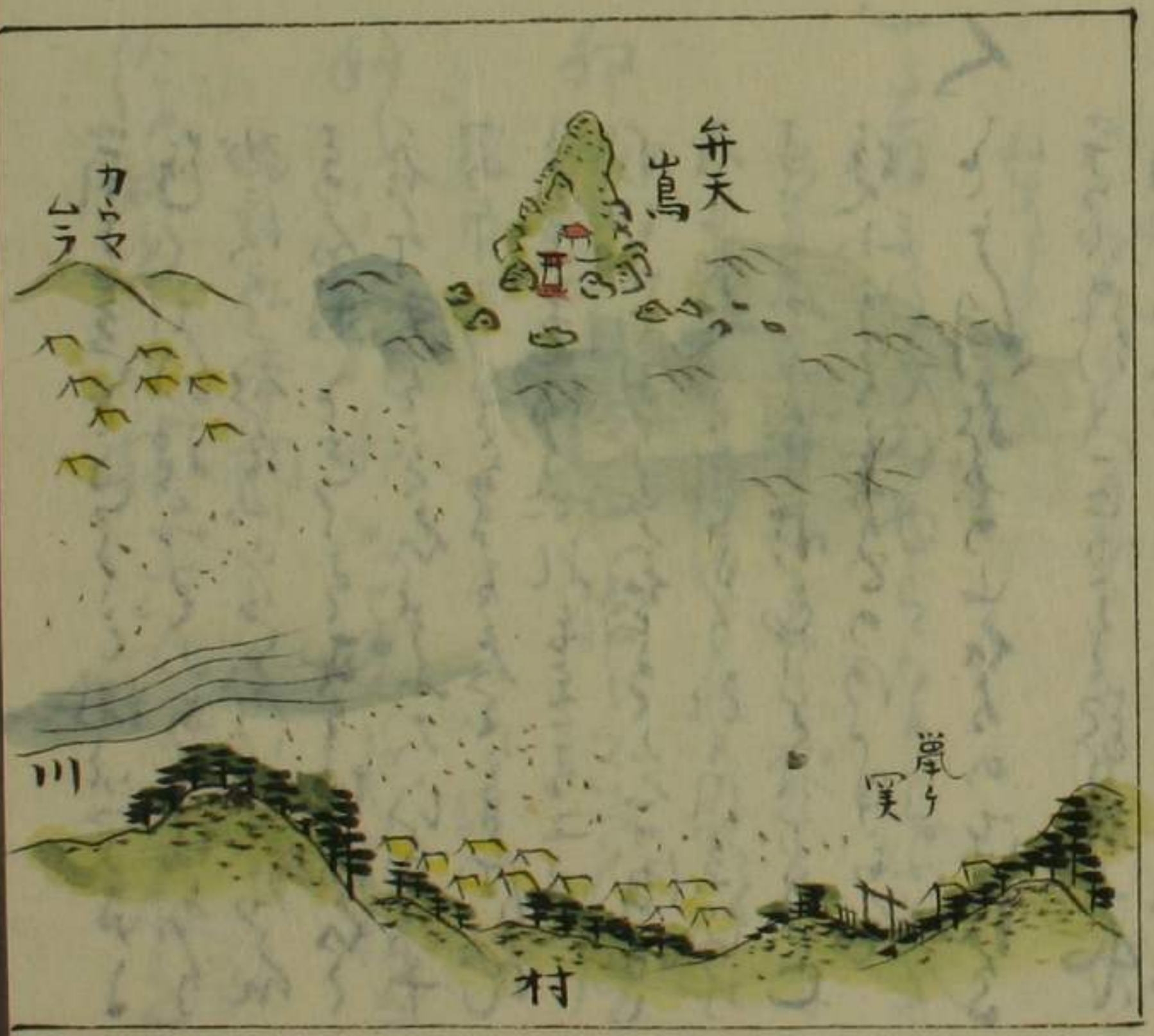
かきこしはかきこしとていふは

かきこしはかきこしとていふは

かきこしはかきこしとていふは

かきこしはかきこしとていふは

かきこしはかきこしとていふは







羽黒稲川

羽黒稲川に流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

清く流るる水

能く...  
能く...  
能く...

能く...  
能く...  
能く...

能く...  
能く...  
能く...

能く...  
能く...  
能く...

紀行 奥州

能く...  
能く...  
能く...

能く...  
能く...  
能く...



鳥海山  
 松  
 城  
 天  
 大  
 秋  
 越



Handwritten text in Arabic script, first line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, first line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, tenth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, thirteenth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourteenth line of the right page.



女ら行くの後よ

とて後さしとて女ら行くは

おののけ

ゆきよのきよきよきよきよ

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

八重

橋も橋行くはさしとて女ら行く

仙舟の後さしとて女ら行く

十一の橋行くはさしとて女ら行く

早の橋行くはさしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く

あつきの後さしとて女ら行く





三本木の城の配置

三本木と谷中

三本木の城は、水戸より北にあり、

水戸の城より北にあり、

水戸の城より北にあり、

水戸の城より北にあり、

水戸の城より北にあり、

一四二  
新編日本書紀  
卷之九  
和名  
日嗣天皇御紀  
五十三  
御宇  
天皇御紀  
五十三  
天皇御紀  
五十三  
天皇御紀  
五十三

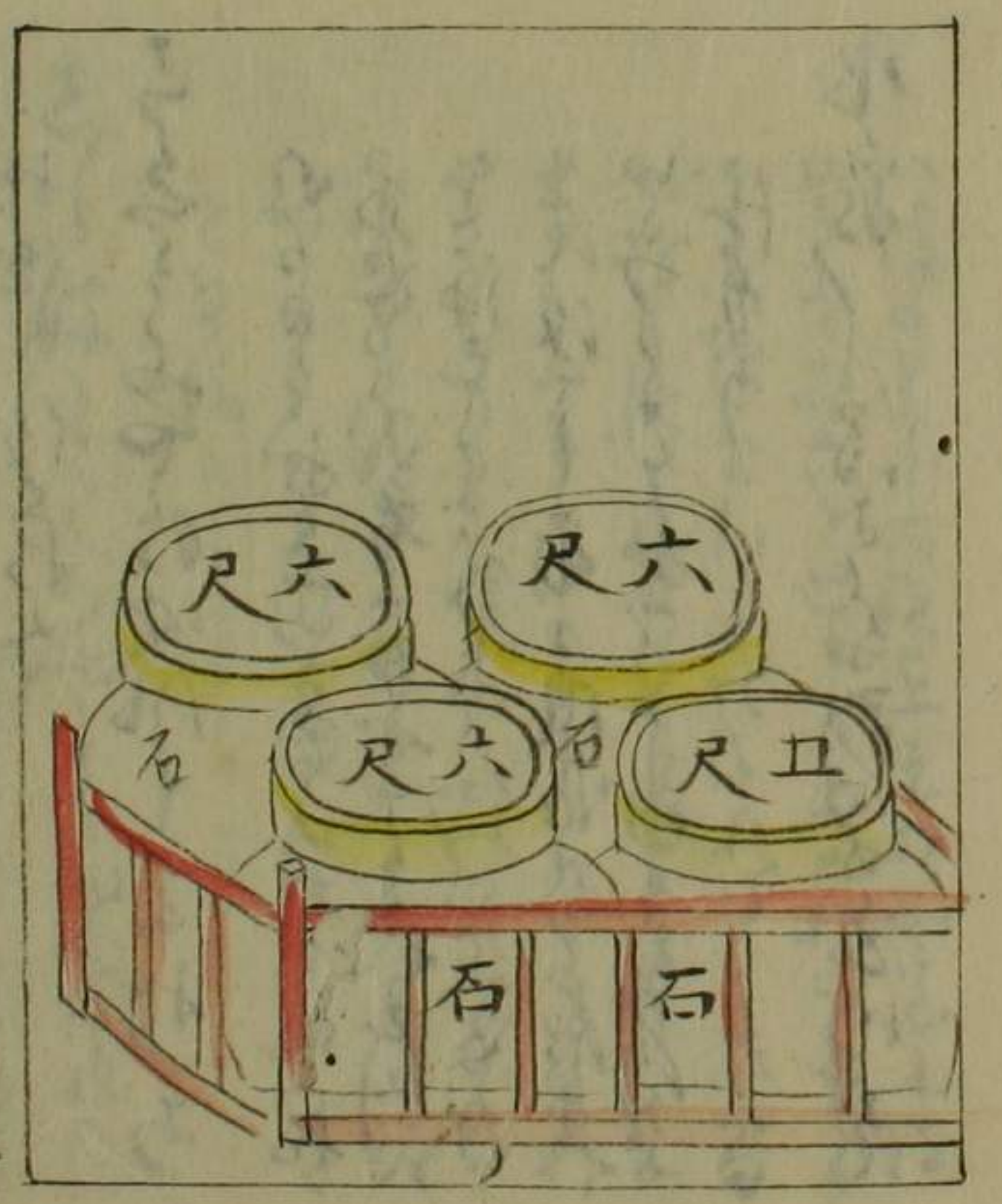
海、扶桑、一、日、魂、...  
日嗣天皇御紀  
五十三  
天皇御紀  
五十三  
天皇御紀  
五十三



居る所を電の測杯と云り毎天の  
 所を電の測杯と云り毎天の  
 の度の上を電の測杯と云り毎天の  
 と云れ

七回しつゝ電の測杯と云り毎天の  
 所を電の測杯と云り毎天の  
 の度の上を電の測杯と云り毎天の  
 と云れ

七回しつゝ電の測杯と云り毎天の  
 所を電の測杯と云り毎天の  
 の度の上を電の測杯と云り毎天の  
 と云れ



七回しつゝ電の測杯と云り毎天の  
 所を電の測杯と云り毎天の  
 の度の上を電の測杯と云り毎天の  
 と云れ

奥に在る凡宮石子の前庭あり  
 廻廊も色を以て然る如きなり  
 多し神に玉拜殿あり字を今  
 宮なりと云ふなり神も多し  
 あり一柱を以て云ふなり  
 井池あり

くまのやの池のほとり

のり目さのむすし山ありのむすし物  
 ありありありありありありありあり  
 と海にありありありありありありあり  
 りんげしありありありありありありあり  
 りんげしありありありありありありあり  
 りんげしありありありありありありあり  
 りんげしありありありありありありあり

水鏡



八幡町に在る末松山のむすし物  
 ありありありありありありありあり  
 ありありありありありありありあり  
 ありありありありありありありあり  
 ありありありありありありありあり  
 ありありありありありありありあり  
 ありありありありありありありあり  
 ありありありありありありありあり

くまのやの池のほとり

市川村のくまのふらふら  
 後にはいかにとて地をなせり  
 のまの代にのちのち

**西**

|     |             |
|-----|-------------|
| 多賀城 | 去京一千五百里     |
|     | 去蝦夷国界一百廿里   |
|     | 去常陸国界四百十二里  |
|     | 去下野国界二百七十四里 |
|     | 去靛鞆国界三十里    |

此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將  
 軍從四位上數四等大野朝臣東人之行置  
 也天平室字六年歲次壬寅參謀東海東山  
 節度使從四位上仁部前御兼按察使鎮守  
 將軍藤原惠美朝臣朝鶴修造也  
 天平室字六年十二月一日

石の六尺五分巾三尺四寸深三尺一人  
 市川村のまのふらふら  
 とまのふらふら

昔かゝはふらふら

仙府のまの

日におまの國のまの

道進れは

一、まのまのまのまの  
 まのまのまのまの  
 まのまのまのまの

まのまのまのまの

まのまのまのまの  
 まのまのまのまの

まのまのまのまの



元相見れ岸こゝにやあつて者  
のしるをよりにて

るふしやうにそとほつてはな

白草の根は

明らあつて白草乃しそとせ

仙人もあつてはな

梅のつぼみもあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな

はなはなとあつてはな



# 夜を語り解

能くそのほろをふむ夜を語り  
 しのほろをふむ夜を語り  
 おのほろをふむ夜を語り  
 のほろをふむ夜を語り  
 らのほろをふむ夜を語り  
 どのほろをふむ夜を語り  
 こほろをふむ夜を語り  
 さほろをふむ夜を語り  
 ざほろをふむ夜を語り  
 じほろをふむ夜を語り  
 ぢほろをふむ夜を語り  
 ぢほろをふむ夜を語り

能くそのほろをふむ夜を語り  
 のほろをふむ夜を語り  
 らのほろをふむ夜を語り  
 どのほろをふむ夜を語り  
 こほろをふむ夜を語り  
 さほろをふむ夜を語り  
 ざほろをふむ夜を語り  
 じほろをふむ夜を語り  
 ぢほろをふむ夜を語り  
 ぢほろをふむ夜を語り

合歌のあはれなりし可のまをいふ

紀行

本曾根

五月廿一日の九日といふに  
あつた後と一いふは  
しやあつたやあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた

おぼろし〜  
の〜

おぼろし〜

〜

おぼろし〜

〜

おぼろし〜

〜

おぼろし〜

〜

おぼろし〜

おぼろし〜  
おぼろし〜  
おぼろし〜  
おぼろし〜  
おぼろし〜

おぼろし〜

〜

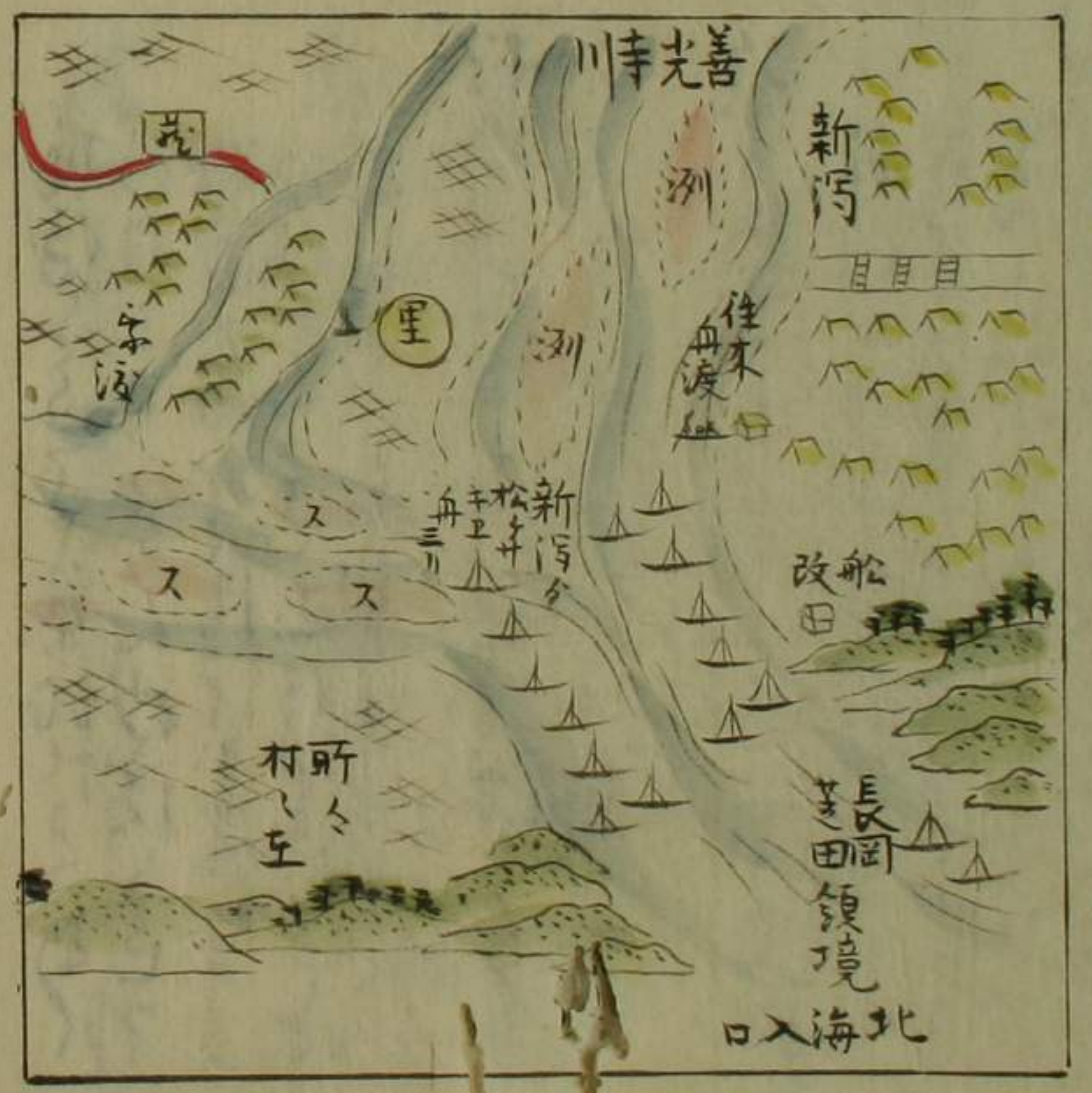
おぼろし〜

〜

おぼろし〜

〜

おぼろし〜



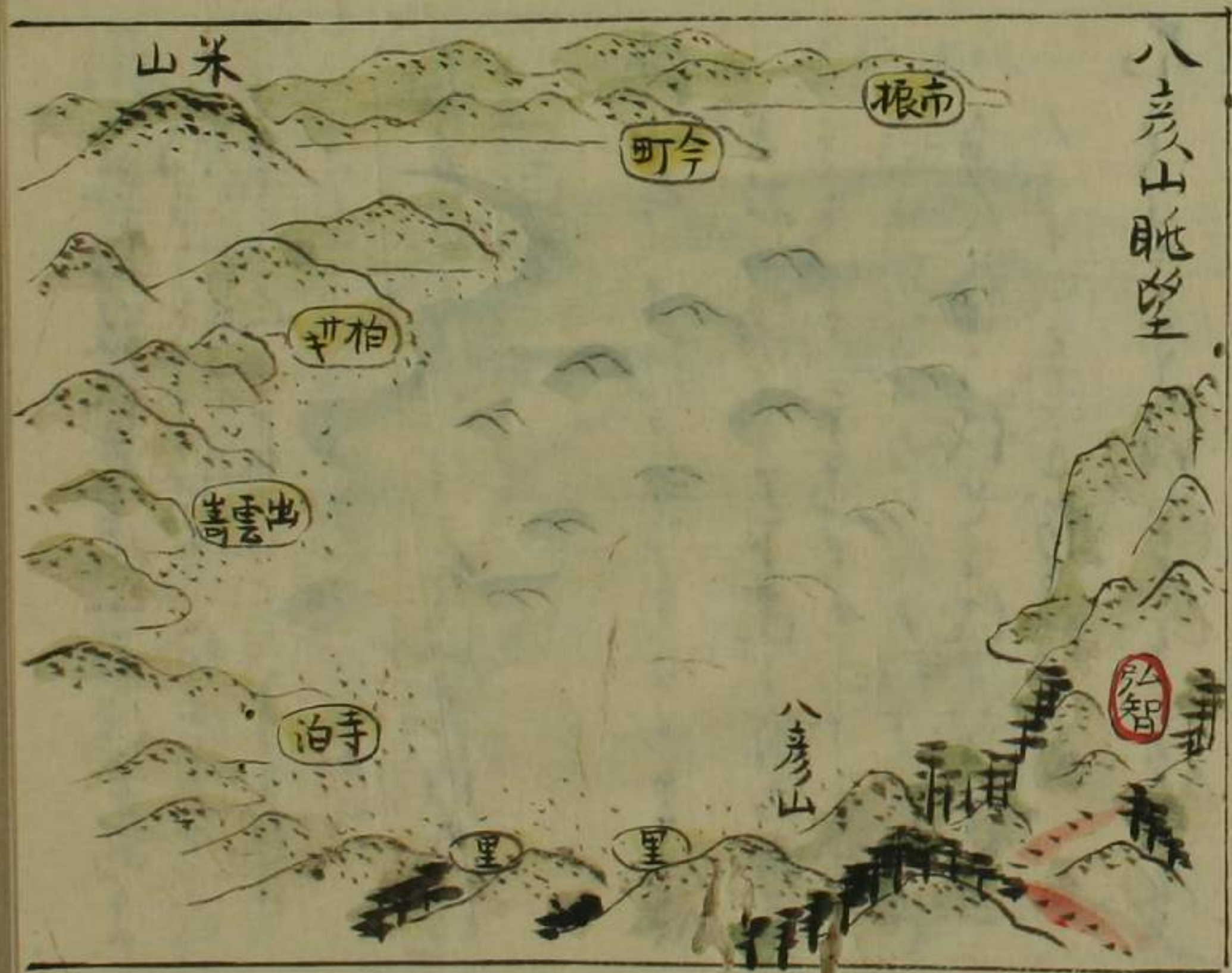
新河の舟来

舟来

改船

長岡領境

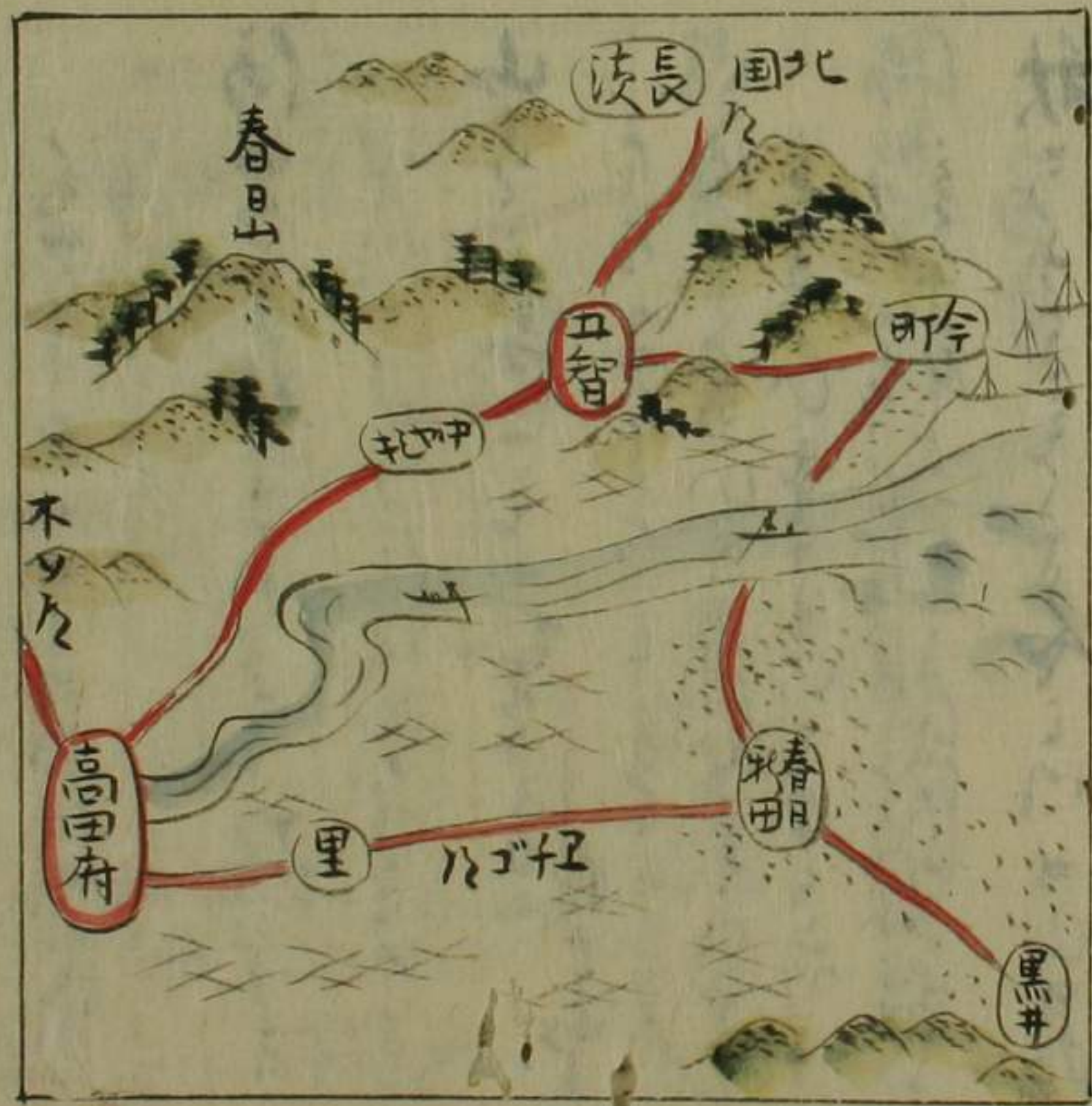
北海入口



石原のまをるおゆき  
 秋のまをるおゆき  
 山米のまをるおゆき  
 日やゆきをるおゆき  
 出雲のまをるおゆき  
 白寺のまをるおゆき  
 八彦山のまをるおゆき

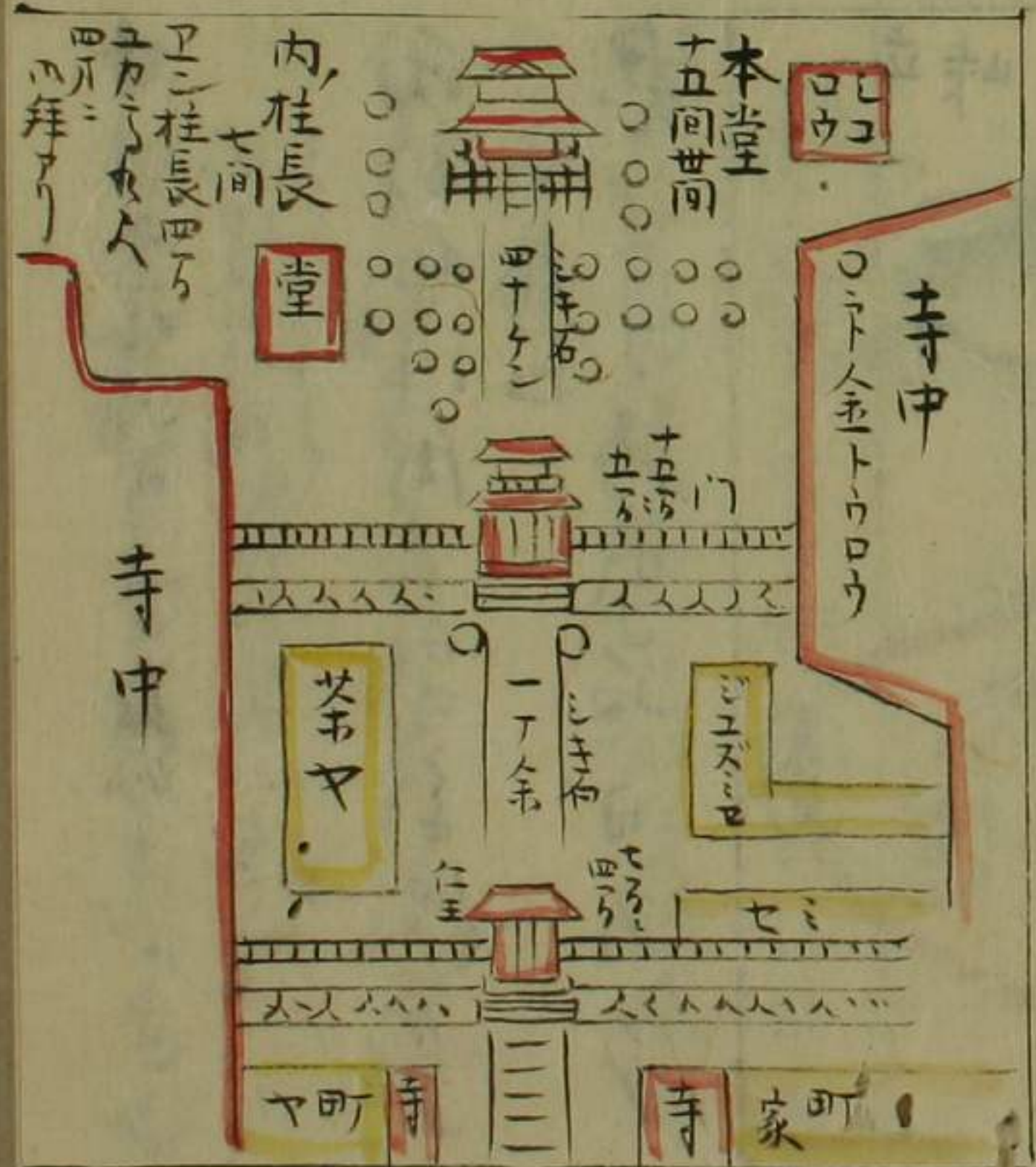
河内郡高田の地

高田の地



河内郡高田の地  
 高田の地  
 今町  
 五智  
 長凌  
 黒井  
 春山  
 北国  
 木津川  
 高田川

高田の地  
 今町  
 五智  
 長凌  
 黒井  
 春山  
 北国  
 木津川  
 高田川



寺中  
 〇下全トウロウ  
 本堂  
 十五間  
 五間  
 内柱長  
 堂  
 茶室  
 ヤ町  
 寺家町

寺中  
 〇下全トウロウ  
 本堂  
 十五間  
 五間  
 内柱長  
 堂  
 茶室  
 ヤ町  
 寺家町

川中流に舟の影映る  
 舟の影映る川中流  
 舟の影映る川中流

向形や川舟の影映る  
 映る川舟の影映る  
 映る川舟の影映る



五ノ物...  
 舟の影映る川中流  
 舟の影映る川中流

舟の影映る川中流  
 舟の影映る川中流  
 舟の影映る川中流



全中

形代ふるや後のふり

あつたふりたふり

のふりたふり

新

秋の門をり

中

新

あ

ら

後

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



五方の海

あつちあつちの海

十石峠と海

ふるたをわ

七曲り改

海

西の塚

おし

全

林

海

行

全

草

大

お

社





お後と行

月のまにまにれいそんけい

こまの改のりわはら

きんしよの後集の物と

あふりふは毎とをねん

清られこも大杖の

こめは毎集

清られこも大杖の

あふりふは毎とをねん

清られこも大杖の

あふりふは毎とをねん

お大

清られこも大杖の

あふりふは毎とをねん

清られこも大杖の

あふりふは毎とをねん

清られこも大杖の

あふりふは毎とをねん

清られこも大杖の

あふりふは毎とをねん

あふりふは毎とをねん

あふりふは毎とをねん

あふりふは毎とをねん

喜のうらやま

ふしむらじりてはるの月を三層の

余中

のしるはるのうらやま

ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の

ふしむらじりてはるの月を三層の

ふしむらじりてはるの月を三層の

五

ふしむらじりてはるの月を三層の

ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の  
ふしむらじりてはるの月を三層の

ふしむらじりてはるの月を三層の







移りし者もいふに  
 ちかきもいふに  
 上流東へは人の  
 行の河もいふに  
 保平の河もいふに  
 保平の河もいふに  
 保平の河もいふに  
 保平の河もいふに

奉納と云作也

日よ小敷の海の水は秋の浦水

と物も言ふ

花の影を

花の影を

中庭へ所は色はさかめり

今や中庭の影を花の影を  
いふはつと影を花の影の影  
名は一人とて花の影を花  
いふはつと影を花の影を花  
さかめり花の影を花の影の  
名は一人とて花の影を花の  
いふはつと影を花の影を花

とて花の影を花の影の影

花の影を花の影の影

花の影を花の影の影

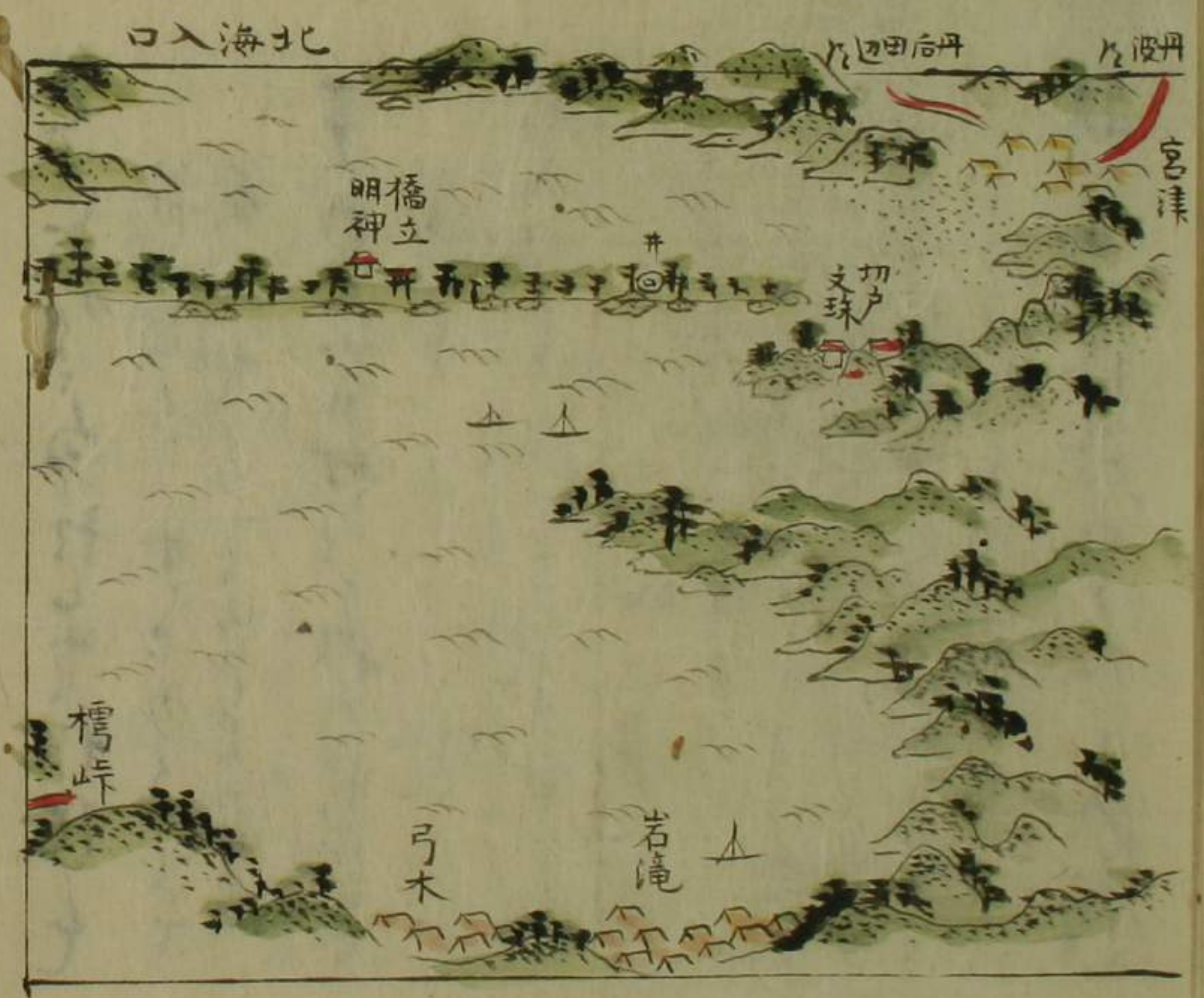
花の影

花の影を花の影の影

花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影  
花の影を花の影の影

花の影を花の影の影

之橋丹  
図立後



成相寺  
 此の河  
 丹波の  
 切戸の  
 中  
 此の河  
 丹波の  
 切戸の  
 中

おののけははらへりて  
あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

途中二章

谷川やあはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて

あはれなるはらへりて  
あはれなるはらへりて



七溪涼也ほせむのてふ

十六山

めらひのほけのたのま

井

さあやあはれいんてい

さあやあはれいんてい

さあやあはれいんてい

さあやあはれいんてい

名はつゆや草いん

軽も

林のたあもいん

石のの乳石や

御新やいんてい

文付る翁

新のいんてい

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or location.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.





何れもゆるゆると

の歌もゆるゆると

内中もゆるゆると

物さしゆるゆると

西の風

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



三
 光善
 葛波丹
 山十
 橋
 原
 原
 木六
 姫信山

借取
 打井
 光善
 葛波丹
 山十
 橋
 原
 原
 木六
 姫信山

Handwritten text in Arabic script, first line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, first line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

何事も成さずして

かたじけなく

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

たゞしは

しるしを記すに

たゞしは

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, starting with a large initial 'S'.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Small handwritten note or signature in cursive script.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial 'S'.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Small handwritten note or signature in cursive script.

ふらふらと...
あつた...
あつた...
あつた...

閑...
武部...

像...

あつた...
あつた...
あつた...
あつた...

海...

あつた...
あつた...
あつた...
あつた...

あつた...

あつた

あつた...

あつた

あつた...

あつた

あつた...

一と白

まゆ物や白きくちりし雨の白

老々年々着如雪中花

まゆ物や老の力も物なり

いづれもささるるふらふらと花

竹眠水空山砂

世の氣はたからんはく 十部

世も砂りておるるをんを七

花も隙ぬりしはくく 向も

一竹青々 眠客杯

老のや花のけのほけ
くくをふらと花のほけ

旅情二吟

何れもまるとと旅のかり

りもみまるとと旅のかり

おれもやまのよりの水

いづれもささるるふらふら

まゆ物や女のまゆ物

ちのまゆ物や女のまゆ物

板のまゆ物や女のまゆ物

涼風しるしれを月の天は
ふきくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく後

即也

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

下略

立秋

秋の月や
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

月入斜窓曉寺鐘

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

白雲生處在松家

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

百韻独吟

荷洋と納京詩

七言のまやそりふりふりふり南
甲の回もとまもふ風吟
乙の甲の人の葉の取つてく
丙のあの子供のそり解り
丁のさふほのほのそり解り
二万石とそり解り
戊の甲の月の光り
己の甲の信のまもり
庚の甲の信のまもり
辛の甲の信のまもり
壬の甲の信のまもり
癸の甲の信のまもり

恨

恨のまもり
甲の甲の信のまもり
乙の甲の信のまもり
丙の甲の信のまもり
丁の甲の信のまもり
戊の甲の信のまもり
己の甲の信のまもり
庚の甲の信のまもり
辛の甲の信のまもり
壬の甲の信のまもり
癸の甲の信のまもり

